

# ふれあいたまこ

「ふれあいたまこ」は多摩湖町福祉協力員会の広報紙です。年2回(9月・3月)発行し、多摩湖町の全戸に配布しています。

第51号  
平成31年3月

発行:多摩湖町福祉協力員会  
連絡:Tel.395-4125  
(地区長 増子 正子)

東村山市社会福祉協議会  
東村山市野口町1-25-15  
(Tel. 394-6333)

## 多摩湖町の高齢者の増加と人口減少



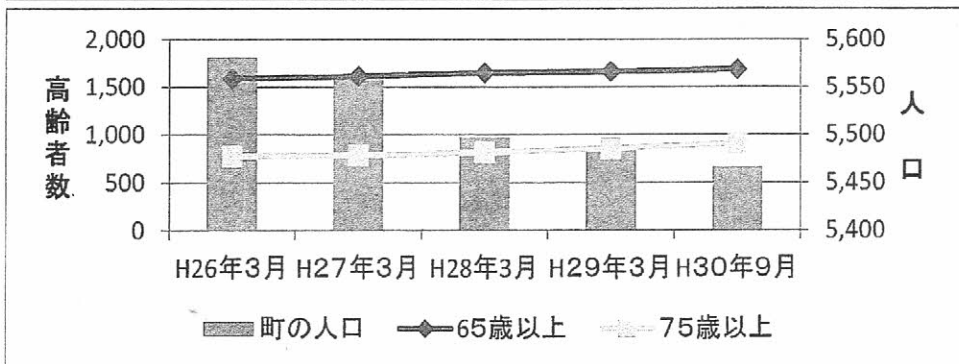
人生100年時代と言われ超高齢者社会の波は、多摩湖町でも押し寄せている。

ここ4年半の高齢者推移をみると、平成26年3月の65歳以上が1,588人(多摩湖町人口比28.4%)、75歳以上が771人(同比13.8%)であったが、平成30年9月では65歳以上1,683人(同比30.8%)、75歳以上905人(同比16.6%)となっている。この4年半で65歳以上が95人増加、75歳以上が134人の増加である。因みに平成30年9月現在、100歳以上は町内で女性6人、市全体では71人(うち男性9人)である。

一方人口は平成26年3月5,582人から平成30年9月5,466人と116人減少している。今後とも高齢者の増加と人口の減少の相関関係は変わらないと思う。日中街を歩いている人は殆んど高齢者のみで、子供のはしゃぐ声、子供連れの親子、若者は以前よりも増して見られなくなった。

多摩湖町の年別高齢者数の推移と人口動向

摘要	H26年3月	H27年3月	H28年3月	H29年3月	H30年9月
65歳以上	1,588	1,613	1,645	1,660	1,683
75歳以上	771	781	811	856	905
町の人口	5,582	5,563	5,497	5,487	5,466
市の人口	151,655	150,993	150,790	150,541	150,939



厚労省や地方自治体が進めている在宅の介護や家事援助を通じて自立を支える「地域包括ケアシステム」は計画通り進んでおらず、福祉対策の難しさと、将来への社会保障の財源運営が厳しくなる懸念が強まっていることを、注視しなければならない。

(大熊)

## 子どもたちと行ってみませんか

	(休)開館日・利用時間	備 考
多摩湖ふれあいセンター内 図書コーナー (☎398-7851)	9時～21時30分 休館日は毎週水曜日	図書コーナーでの中学生以下の利用は午後5時までです。ただし、保護者同伴の場合はそれ以降の利用ができます。ゲームやカードなどで遊ぶ場所ではありません。静かに本を読みましょう。
北山児童館 (☎397-1153)	平日 9時30分～17時45分 土曜 9時～17時45分 日曜・祝日 9時～17時	ゼロ 〇歳児から気軽に遊びに行ける施設です。授乳やおむつ替えのスペースもあります。

## ボランティアの窓

昨年10月21日に実施された北川クリーンアップ作戦に参加しました。毎年、春と秋の2回行われています。「はっけんの森」の宅部遺跡橋から出発し、多摩湖町4丁目から3丁目の方向へ北川沿いの清掃です。川沿いに住宅が並んでいるので大きなゴミもなく、川淵の道にも花々が植えられており綺麗にしている様子がかがえました。



水道橋(桜並木のところ)の袂から川に下りて枯れ枝を拾ったり、長く伸びてしまった草を取り除いたりしました。市役所の担当の方から川の水をきれいにする水草があることも教えていただきました。そこで発見！泥や苔に覆われた物体？です。水で濡らした軍手で磨いたところ、きれいな青緑色をしたものが現れました。今まで何度か参加してきましたが、今回これを初めて見ました。川のほとりに「青緑色の鯉」のオブジェがあったのです。ほんとうに素敵な色でした。川には黒赤の泳いでいる鯉を見ていたのに、なぜ今まで気づかなかったのだろう？

この文章を書くにあたり今年の初め、もう一度あの「青緑色の鯉」を見に行きました。再び川に下りて確かめたところ、なんとびっくり！ずっと鯉だと思っていたのに、それは「石の水飲み台にとまった鳥」でした。自分の記憶の不確かさに我ながら呆れてしまいました。川から階段を上ってきたら、ちょうど福祉協力員の方に出会ったので、あの「鳥」のことを伺ったら「たぶん鴉(カラス)ではないかしら」と。家に帰って川沿いに住んでいる友人に電話で聞いたところ、白鷺やねずみ色の小柄な鳥(五位鷺ではないか)や鴨をよく見るということでした。

今年のクリーンアップ作戦では長靴を履いて川に下り、あの青緑色の鴉を磨こうと思っています。何かまた新しい「はっけん」があるかもしれません。

(深野)

## 民生委員・児童委員掲示板その⑩



民生委員として係った事例をご紹介します。

6年前80歳のSさん、認知症の治療を受けている72歳の妻、50歳の長男と3人の家族に出会いました。3人の家族でもあり、夫婦とも75歳以上に達していないため訪問の対象にはなっていませんでした。

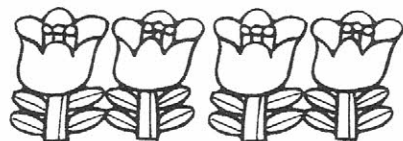
長男からいじめを受けているという近所の方から、長男が大声で怒鳴ったり、暴力をふるったり、平気で人の物を隠したりするので高齢者夫婦が困っているという連絡がありました。長男は平日朝6時過ぎには仕事で出掛けてしまうため、日曜日に4時間程かけて長男と話し合い「親孝行は親が死んだら出来ないだよ」と言って説得し、今一切しないことを約束してくれた。近所に住んでいる次男が毎朝出勤前に一日分の食事を用意していた。

4年前の2月にSさんは急性心筋梗塞で約4ヶ月入院してカテーテルの手術を受けました。既に軽い認知症の診断を受けていた妻は、Sの入院中毎日病院に行き、行くたびにSさんが元気になるのを喜んでいました。長男は3日毎に、次男はほぼ毎日見舞いに行っていました。その後Sさんは特に後遺症もなく退院してから家庭菜園、ウォーキングなど出来るようになりました。

追い討ちを駆ける様に3年前の10月にSさんから妻の病気で民生委員に連絡が入りました。直ぐに自宅を訪ねると「妻が『急性骨髄白血病』と診断を受け、このまま治療しないと数ヶ月の命」と言われました。入院治療の予定であったが認知症が進行しているため、思うような治療が出来ませんでした。そのため毎週輸血に行かなければならず、次男が会社を休んで協力してくれました。直ちに介護認定の申請をして要介護3の認定を受けました。

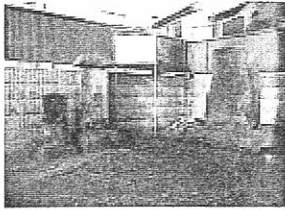
超高齢化社会に向け地域の人の協力と北部地域包括支援センター、市高齢福祉課と民生委員が情報を共有しながら解決すべきこと、相談すべきことが益々多くなって来ている。

地域の多くの高齢者のために、社会的弱者のために、子育てのママのために、児童・生徒のために、今日も頑張らなければならないと民生委員の使命を改めて知らされた家族の出会いでした。



(大 熊)

# 多摩湖町を歩いてみる シリーズ⑩



▲庚申塔等

## 赤坂庚申塚

この庚申塚は多摩湖町2-7-3に所在する。

南北に走る赤坂道と東西に走る宅部通りのT字に交差する角地にある滑り易い赤土(鉄分を多く含んだ土のため赤い)の坂であることから赤坂道と呼んだ。「赤坂道」は中世《12世紀(源氏平氏の時代)~16世紀(織田信長・豊臣秀吉の時代)》からの古い道で路傍には多くの石造物があった。

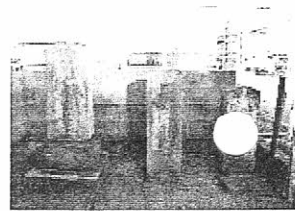
庚申塔は右面に「山口くわんおん(観音)道」と刻まれ道標も兼ねていた。隣には「板東西国百ヶ所」と刻まれた供養塔があり、「新道碑」「道路改修記念碑」も立ち並んでいる。また、この塔から北方60m先の北川(旧宅部川)の日向橋のたもとに「馬頭観音」「石橋供養塔」「光明真言供養塔」が建っている。

やや風化しているが庚申塔に刻まれたところを見ると、明年4年(1767年)《10代将軍徳川家治・商業の発達と町人の台頭の時代》宅部地区(現多摩湖町)14人によって建てられ、高さ88cm、笠付角柱形式の塔身に「青面金剛像」彫られている。下部には三猿があり石で彫った完全に完成した庚申塔である。この6基とともに往時の宅部地区の人々の信仰と交通事情を物語る石造文化財である。

昭和62年10月1日「市有形民俗文化財」に指定

\*庚申塔は中国より伝承した道教に由来する。庚申信仰に基づいて建てられた石塔である。庚申講(庚申待ち)を3年18回記念に建立されることが多い。庚申の夜は夜通し眠らないで天帝(天に居て万物を支配する神)や猿田彦、青面金剛を祀り物語をしたり、宴会をしたりして夜を過ごした。

\*庚申講(庚申待ち)とは人間の体内にいるという、三尺虫さんしちゆうという虫が庚申の夜寝ている間に天帝に人間の悪事を報告しに行くこととされていることから、防ぐために夜通し守っていた。(大熊)



▲馬頭観音等

## あ と が き

まもなく平成の御代が終わりを告げます。1989年から始まるこの年代では、巨大地震、台風、集中豪雨、火山の爆発といった自然災害が相次ぎました。阪神淡路大震災を機に、ボランティアという概念が生まれ、定着したのも平成の時代です。窮地にある他者のために何かしたい、役に立ちたいという気持ちは人間らしい発想です。これからのAI(人口知能)時代にあって、実際の作業ではAIが担えても、ボランティアをしたいという「心」の発露はAIにはできないものです。私達福祉協力員は、こうしたボランティア精神を大切にしつつ、「困っている人をひとりにしないまち」、「様々な人が協力しあうまち」、「誰もが福祉活動に参加できるまち」(東村山市第5次地域福祉活動計画より)を目指して活動して行きたいと思えます。

(神津)